

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
<http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/>

編集発行人・森 和雄

2021/6

親子が安心して笑顔になれる場所 「エンゼルの会」

鶴見区の「エンゼルの会」は「障害者地域活動ホームふれあいの家」で週二回の活動をする障害児地域訓練会(※)。

今回は「エンゼルの会」に参加するお二人のお母さんにお話を伺った。

「エンゼルの会」と

出会って

現在、幼稚園に通う五歳の女の子のお母さんである遠藤さんは三年前から「エンゼルの会」に参加し、二年目は保育部の部長も務めた。そんな遠藤さんが、区役所の保健師に「エンゼルの会」を紹介された時は、訓練会という固い響きや親の自主的な運営であることに抵抗感があり、入会を考えていなかった。ところが、見学するとイメージしていた教室のような雰囲気とは違い、子どもたちは一緒に遊

び、みんな楽しそうだったので入会を決めた。活動中の朝の会で、前に立つて名前を言える子どもがいることに驚き、一方で「まさか娘にはできないだろう」と思っていた。それでも一か月ほど経つと、母と離れて活動ができるようになり、やがて名前も言えるようになった。娘の成長に家族は喜び、以前より雰囲気明るくなった。「エンゼルの会に救われた」と振り返る。山之内さんは、現在療育センターに通う五歳の末娘を含めた四人の子のお母さんだ。以前から末娘の発達が気になりつつも子育てに追われていたところ、療育センターで見つけた「エンゼルの会」のポスターを見て訓練会の存在を思い出した。「できることが増えたら、エン

ゼルの会をやめて幼稚園へ」という気持ちで入会を決めた。しかし実際に活動に参加すると、できることが増えるだけでなく、娘の笑顔も増え、協力者さんが丁寧に関わってくれる訓練会の良さを実感し、現在も活動を続けている。

訓練会の魅力とは

お二人に訓練会の魅力について尋ねると、「子どもたちだけでなく、親にとっても仲間とつながることができ場所。同じ悩みを持つ親だからこそ打ち解けるのも早いし、分かりあえることも多い」と話してくれた。また、上の年齢の子をもつ親と縦のつながりもあるため、先輩お母さんとの交流を通して、将来が見えることも魅力の一つ。訓練会は自主的な運営のため大変なこともあるが、子どもたちのために、できることを無理なく、親にとっても楽し



「エンゼルの会」の日々を振り返る
遠藤さん(左)と山之内さん(右)

※障害児地域訓練会
幼児から高校生まで様々な障害のある子どもたちが、協力者(ボランティア)の支援を得ながら保育・体操などの活動を行っている場所。同時に、家族が仲間づくりをする貴重な場でもあり、地域の理解を深めていく場でもある。

い場所になるよう工夫しながら活動しているとのこと。「子どもたちの楽しい活動のためには、まずお母さんが笑顔であることが大切」と、遠藤さんと山之内さんは終始、笑顔でお話をしてくださった。今後もお子さんだけでなく、お母さんたちも笑顔にする「エンゼルの会」が長く続いてほしい。

望遠鏡

二月十三日に福島県沖で発生した地震は、東日本大震災からの警鐘ではなかったか。

十年前のあの時、何が起ったのか、どんなことに困ったか、何をしたら、自分にとっての3・11を振り返ることが災害の教訓を生かすことにつながる。

災害のニュースに接したとき誰もが不安になる。大切なことは、「もし自分だったら」と想像力を働かせて、不安の正体を「自分の困りごと」として見つけることだと思う。困りごとが多い場合には、優先順位をつけて具体的なアクションをおこしていく。支援者の協力も重要だ。住まいの状況や家族構成等を考えながら、「私のセルフティネットづくり」を進めよう。

新型コロナウイルス報道の中で災害への関心が薄れがちの今、多めになった自分の時間を活用して、被災者の立場で身の周りを点検し、災害への備えにつなげていくようにしたい。

(横浜市身体障害者団体連合会

井上 彰)

障害者支援センターセンター長を 辞するにあたって

この六月二十二日を
もつてセンター長を辞め
ることにしました。

いろいろありました。

沼尾前センター長が急
逝され、バトンタッチし
て九年がたちました。

ちょうど東日本の大震
災後からコロナの時代
にあたりました。この国
の多くの人たち、とりわ
け、障害児者ご本人、ご
家族にとつては、大変な
ときだったと思います。

支援センターもその間、
後見的支援制度を十八
区に展開し、共同受注
総合センター（わーく
る）、移動情報センター、
福祉バスと業務を拡大
してきました。忙しく
過ぎた、あつという間の
時間でした。しかし、こ
れらの業務は、支援セン
ター自らが生み出した
ものでは必ずしもな
かったように思います。
モニター制度の活用も
含め、支援センター独自

とは幸運なことだと
思っています。

この九年、運営委員会

の動きが必要ではな
かったかと反問していま
す。そのときどきを私
はセンター長としてもつ
と何かできたのではな
いかと振り返っています。
考えなければなら
ない時だと思いました。

新たな発想が必要で
す。専門的な豊富な知
識をもった実務家とし
て、課題を的確にとら
えて柔軟に、センターを
進めていくことができ
る人にバトンタッチが必
要だと思いました。特
に、コロナの時代にあつ
て、多くの会合の開催が
困難になり、情報の交
換も不十分なままです。
また、国そして地域
の経済が縮小する中で
障害分野へのお金の流
れにも支障が出て来る
ことが予想されます。
そのような困難な時代
にあつて、内嶋新セン
ター長にこの職責を引
き受けていただけるこ

とは幸運なことだと
思っています。
この九年、運営委員会
をはじめとする多くの
方々にとってもお世話に
なりました。いろいろな
方々と話をできたのは
私の大きな財産でし
た。この二年、コロナの影
響で開催されませんで
したが、毎年一月の成人
を祝うつどいや五月のふ
れあいスポーツ大会は大
きな思い出になります。
今回、センター長を辞す
ることになります。が、こ
れからも別のフィールド
で障害児者への支えを
続けていきたいと思つて
います。弁護士もお役
に立てるかもしれない
せん。そんなときには声
をかけてください。
これまで本当にありが
とうございました。



（障害者支援センター
前センター長 森 和雄）

障害者支援センターセンター長の 就任にあたって

今般、障害者支援

ました。

センターのセンター長と
いう大役を仰せつかり
ました弁護士の内嶋順
二でございます。前任の
森和雄弁護士が九年
間にわたりその発展に
尽力されたセンターを
預かるのは誠に身の引
き締まる思いでござい
ます。

障害者支援センター
の前身である在援協
は、障がいがある方の
家族が中心となり、
障がいがある方とない
方とが等しく人間らし
い生活ができるよう希
求し活動をしてこれら
れたと伺っております。
私の母も、在援協が
声を上げていたのと正
に同じ時、我が子が生
きていくための戦いを
続けておりました。そ
の母の背中を見て育つ
た私が、在援協の意志
を受け継いだ障害者支
援センターに関わり、
そのセンター長の責務
を果たすことになった
のも何かのご縁と感じ
ております。

例えば、私も家族
に障がいがある者がお
り、弁護士を志したの
も、幼いときから障が
いがある者と生身の生
活を共にしてきたから
でありました。そのた
めか弁護士として仕事
を始めてからも、障が
いのある方々とのお付
き合いが途絶えること
はなく、障害者支援セ
ンターにおいても、森
センター長が就任され
てから顧問弁護士とし
て微力ながらセンター
の運営に関わって参り

ある人々の権利を尊重
する条約、法律が整
備され、障がいがある
人々を主役に据えた福

祉政策が当たり前のよ
うに実施されるようにな
りました。一方で、
障がいがある人々が、
家族の力を借りること
なく人間として当たり
前の生活を営むための
社会的な受け皿は未
だ充分とは言えず、
それどころか依然とし
て多くの社会的なバリ
ア、即ち差別が存在し
ております。このよう
に障害者支援センター
の果たすべき役割はま
だまだ尽きることがあ
りません。若輩者では
ございますが誠実に職
務に取り組む所存でござ
いますので、今後とも
障害者支援センター
の活動に多大なお力添
えを頂きたくお願い申
し上げる次第です。



（障害者支援センター
センター長 内嶋 順二）

令和3年度
横浜市社協障害者支援センター事業と予算

今年度の予算総額は、約三十一億九千七百万円。地域活動支援センター作業所型二か所の新設予定等により、前年度から約三千六百万円の増額となった。

前年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業を休止する等の影響を受けたが、今年度も各事業の目的に合った成果を挙げられるよう、状況に応じて柔軟な対応を行う。

障害理解の推進

「セーフティネットプロジェクト横浜」支援事業では、コミュニケーションボード等を用い、当事者や家族の主体性を大切に、地域防災拠点や商店街等への働きかけを進める。

また、「当事者発・地域啓発支援事業」は、区社協と協働して、地域の中で当事者・家族と出会う

障害理解の場となるよう、地域団体の取組を支援する。

後見的支援制度の推進

各区の運営法人と協働し、地域での身近な見守りや本人の希望と目標に基づく支援等を行う。また、横浜市・運営法人とともに、引き続き、安定的かつ持続的な制度運営に向けた検討を進める。

今後も登録者拡大に努めるとともに、区社協や地域ケアプラザ等との連携を一層進め、身近な見守り体制づくりを進める。

移動情報センター！

福祉バス事業の実施

各区社協等関係団体と連携し、適正な運営を行う。把握した課題の整理、当事者や家族の思いと生活課題の集約を進め、解決に向けた検討に着手する。

横浜あゆみ荘の

サービス・運営の向上

引き続き、様々な新型コロナウイルス感染症対策を実施し、利用者の方が安全に安心して利用できるよう取り組む。また、PR活動を積極的に行うとともに、新たな企画事業を実施する。

更に、障害児者の余暇支援事業のほか、区社協やウィリング横浜等と連携して、当事者・支援者を対象とする研修や地域への障害理解に向けた啓発事業に取り組む。

受注センターわーくる

新型コロナウイルス感染症の影響により事業所の受注機会が減少しており、引き続き、わーくるのノウハウや関係機関・団体・企業とのつながりを活かして、受注機会の回復と新規獲得を図る。

また、受注能力の向上に向けた研修会の開催等、受注拡大と社会参加の促進に取り組む。

ガバナンスと

コンプライアンスの徹底

小規模の事業所団体が多く、運営支援の観点から適切なリスク管理が求められる。

引き続きコンプライアンス研修を行い、会計実務に係る支援や監査等により、事業全体の適切な運営を目指す。

地域訓練会助成事業

地域訓練会の運営を支援し、活動費を助成する。併せて、関係機関や家族に対して、訓練会の周知に取組む。

助成予定…五十五団体

作業所型助成事業

作業所型の運営を支援し、その運営費を助成する。

助成予定…七十八か所
(うち新設予定二か所)

地域活動ホーム事業

機能強化型活動ホーム二十三か所の運営を支援し、その運営費を助成する。また、建物・設備の維持管理を行う。

グループホーム助成事業

A型グループホームの運営費助成と法定事業化支援を行う。

助成予定…四か所

人権擁護事業

人権擁護の観点から啓発活動やモニター活動を行う。B型グループホームへのモニター活動は、関係機関と連携して実施する。

地域活動支援事業

医師・弁護士・税理士・理学療法士・看護師等を派遣し、専門相談を実施する。

研修事業

当事者や家族、関係機関職員等に対し、障害者福祉の総合的な研修を実施する。

令和3年度横浜市社協障害者支援センター事業予算

事業名	予算額(千円)
地域訓練会運営費助成事業	77,848
地域活動ホーム事業	526,633
地域活動支援センター作業所型助成事業	1,754,265
グループホーム助成事業	57,957
販路拡大事業	6,156
家庭援護事業	2,547
研修事業	1,490
福祉団体活動支援事業	3,000
地域活動支援事業	13,250
療育検診活動事業	614
啓発活動事業・障害者団体部会	2,692
調査研究事業	479
人権擁護事業	2,950
助成団体監査事業	6,000
作業所等賠償責任保険事業	1,344
セーフティネットプロジェクト横浜支援事業	2,893
福祉バス運行事業	63,073
障害者後見的支援事業	201,944
よこはま障害者共同受注総合センター事業	20,448
移動情報センター運営事業	154,522
横浜あゆみ荘事業	222,414
その他	74,958
合 計	3,197,477

巡回相談事業の活用例について

当センターの巡回相談事業では、機能強化型障害者地域活動ホーム、地域活動支援センター作業所型、障害者グループホーム等

での支援や運営上の課題などについて、相談内容に応じて専門家を派遣している。今回は、実際の活用例について、紹介を行う。

自主製品の食品表示について

磯子区の「どーなつ」では、製造しているパンの成分表示方法について、食品衛生管理の専門家を巡回相談員として招き相談を行った。

令和二年四月より、食品表示の取扱いが新基準へ完全移行したことを受け、「どーなつ」でも原材料名や添加物、アレルギー表示などについて見直しが行われていた。今回の巡回相談では、その見直し内容が

適切であるか、実際の製造工程なども確認しながら、専門家からアドバイスを受けた。

「どーなつ」の山口布美子所長は「加工済の食材を含む製品も多く、限られたラベル枠の中に原材料をどのように表示すべきか悩んでいた。栄養成分の計算方法やアレルギー表示についてもアドバイスを受け、考え方を整理することが出来た」と話す。

グループホームにおけるゾーニングについて

南区でグループホームを運営する「NPO法人それいゆ」では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた現場での対応方法について、巡回相談員として看護師を招き、職員向けの研修会を行った。

グループホームでは、感染の疑いのある方や感染者が発生した場合、ゾーニング（感染領域と非感染領域の区分け）などを徹底した上で、グループホームへ継続して入居する選択が行われる場合もある。しかし、共用の設備が多いことやホームごとに構造が異なることから、ゾーニングについては様々

の方式をとることが難しく、各ホームの入居者の状況まで踏まえた対策が必要となっている。NPO法人それいゆでは、巡回相談員（看護師）を研修講師に招き、日々の支援にあたっての留意点や、施設の消毒方法・検温の実施、サイクルなどについて、現場の状況に応じたアドバイスを受けた。

NPO法人それいゆの郡司隆さんは「巡回相談員がグループホームの事を熟知していたので、職員に分かりやすく、寄り添った形で話していただけた。職場全体で共通認識をもちながら、今後の取

り組みに活かしていきたい」と振り返った。



NPO法人それいゆでの研修会の様子

巡回相談事業概要

対象…

- ① 地域訓練会
- ② 地域活動ホーム
- ③ 地域活動支援センター作業所型
- ④ グループホーム

登録相談員…

弁護士、司法書士、社会保険労務士、医師、看護師、税理士、栄養士など

利用方法…

障害者支援センターにて、相談員の派遣調整を行います。お気軽にお問い合わせ下さい。

障害児地域訓練会

かもめの会（幼児） 木村 美知子さん

もともとは金沢区で保育ボランティアをしていた木村さん。先輩ボランティアの紹介で障害児地域訓練会かもめの会（幼児）に関わるようになった。

それから二十年以上、常に子どもにとって心地よい場、楽しく過ごせる場づくりを心掛けて活動している木村さんのモットーは「まるごとうけとめる」。

生きてきた時代が違う親たちに自分の価値観を押し付けるようなことはしない。違った世代の話聞く事で学ぶことも多いという。

新型コロナウイルスの感染が広がる前は、時には全員でひとつのものに

集まり、空間共有した。コロナ禍の今、様々な制限はあるが、プログラムを工夫しながら親子に気を配り、活動を続けている。

訓練会を続けていてよかったことを尋ねると「二〇代〜六〇代と年齢の幅が広いボランティアと関わったこと。色々な見方や考え方を知ることができた」と話す木村さん。活動後はボランティアで支援を振り返ることを大事にしている。子どもの成長を喜び合い、意見交換を通して子どもへの理解を深め、さらにそれがボランティア自身の活力に繋がるようにと心掛けています。

これから子どもたちの成長をゆるやかに見守ってゆきたいと抱負を語ってくれた。



優しい笑顔の木村さん



横浜市が進めている「教職員の働き方改革」により、学校からわーくるへの相談が増加している。その例として、横浜市立豊田中学校（戸塚区）での作業を紹介する。

教科書運搬作業

新年度、生徒に配布される教科書を二階から四階の各教室へ運び入れる作業はクロスハートワーク戸塚が受注した。

実施方法をいろいろ検討し、力仕事に慣れないメンバーの負担を軽減する工夫として、バケツリレー方式を取り入れた。階段四・五段おきにメンバーが立ち、教科書を上へ送っていく。声をかけ合い、新品の教科書を傷つけないよう心掛けた。初めての作業で、当初の予定よりかなり時間がかかってしまったが、山中所長は「学校という馴染みのある環境での作業はメンバーの安心材料になったのではないか。大勢でつもの作業に取り組む機会が少ないので、達成感につながった」と手応えを感じている。

わーくる障害者共同生活支援センター 受注センター わーくる通信



今年度から、全生徒に貸与されるPC端末約七五〇台に関わる作業をスマイルワークスが受注した。

作業内容は、①端末やアダプターを箱から取り出し、通し番号が入ったシールを貼り付ける、②各教室へ運び入れる、③保管庫へセッとし、電源タップと接続する、④空き箱をつぶし、紐で束ねる、というもの。精密機器を扱うためより慎重さが求められる、またエレベーターがなく階段の上り下りを繰り返す重労働。メンバーの体力を考慮し、安全に運べるよう台数などを調整しながらの作業となった。参加したメンバーからは、「チーむごとに役割を話し合って作業ができた」「作業が楽しくなったところに終わったので残念。またやりたい」などの感想が聞かれた。

依頼者の声

豊田中学校事務職員の樋口さんは、「職員が行うと勤務時間外対応になるなど大きな負担になる作業をお願いできて助かりました。作業内容も特に問題なく、期日通りに完了してくださいました」と話した。



ハートメイド通信

新生活様式として、マスクの着用が定着しました。そのため、多くの作業所がマスクの製作に取り組んでいきます。縫製品を取り扱っている作業所はもちろんのこと、普段はお菓子を作っている作業所、木工品、革製品を作っている作業所等もマスクを作っています。

マスク関連グッズとして、マスクチェーン、マスクバンドなどもあります。ハートメイドカタログには子供用マスクしか掲載されていませんが、型・柄・色様々なマスクがあります。お問い合わせいただければ対応いたします。

皆さんのお気に入り一枚がきつと見つかります。

【お問い合わせ】
障害者支援センター
ハートメイド担当
☎045(681)1131



三上さん

三上さんは、木村さんが先生となつて作り方を教えて下さるそう、職員からも頼りにされる存在だ。



三上さんの作品

に通していく作業は器用さが求められるが、三上さんは慣れた様子で、お話の間にもブレスレット

ぼればれに通う三上さんと木村さん。お二人がお好きだというアクセサリー作りについてお話を聞いた。

三上さんが好きなのはビーズを使ったもの。たくさんあるビーズの中から、配色やバランスを考え並べていく。細い糸



木村さん



木村さんの作品

ト作りを進めていた。お好きだというピンク系のビーズを嬉しそうに並べる笑顔が素敵だった。



地域活動支援センター
ぼればれ(南区)

三上 洋子さん
木村 優菜さん

あゆみ荘

だより

あゆみ荘送迎バスが

新しくなりました

四月から横浜あゆみ荘の送迎バスが新しくなりました。

以前の送迎バスよりもコンパクトになりましたが、乗り心地が良くなったとか。

改めて送迎バスのご案内をさせていただきます。

・六名様以上の障害者団体様のみご利用いただけます。

・バス運行時間は九時から十七時（あゆみ荘着）です。

・事前予約が必要です。お早めにご予約下さい。・複数のご予約が重なった場合はご希望のお時間でお受けできない場合もございます。

・最大二十名様（車いす固定席四席含む）に制限いたしております。

二名様（車いす固定席四席含む）に制限いたしております。

・行先は、仲町台駅、セン

ター南駅、新横浜駅、

横浜ラポール、中山駅、

江田駅、瀬谷駅、よこ

はま動物園ズーラシ

ア、桜木町駅、横浜八

景島シーパラダイス、こ

どもの国です。

※桜木町駅、横浜八景

島シーパラダイスについ

ては往復の高速料金を

をご負担いただいてお

ります。

ほか、ご不明な点がご

さいましたらお気軽に

お問合せ下さい。

横浜観光や団体行事

に大変便利なあゆみ荘

送迎バスです。ぜひ一

ご利用ください。



Wi-Fiを研修室、

プレイルームに

設置します

横浜あゆみ荘では、

客室にWi-Fiを設置

し、宿泊・日帰りのお客

様にご利用いただいてお

ります。

Wi-Fiが一階の研

修施設にあれば、活動

の幅が広がるので、検討

してほしいとの要望を

数多くいただいております。

特に要望の多かった研

修室1・2、児童遊戯室

に、二〇二二年七月を目

処にWi-Fiを整備す

ることといたしました。

リモート訓練会や、w

ebツールを使った会議

等にWi-Fiを活用い

ただけますので、使い慣

れたWi-Fi対応機器

（無線LAN内蔵のパン

コンまたはタブレット端

末、スマートフォンなど）

をご持参ください。

市内・市外の学校様の

宿泊予約について

横浜あゆみ荘では、

原則として宿泊の予約

を六ヶ月前から受付け

ています。

修学旅行や宿泊学

習で横浜あゆみ荘を利用

する場合、申込みか

ら利用までの日程がち

かすぎ、なかなか段取

りがつかない、とのお話

をいただきました。

横浜あゆみ荘として

は、市外、県外も含め、

たくさんの方の学校様に

ご利用いただきたいと考

えています。

このため、現在の方

法を改め、年度毎に申

し込み期間を設けた

上で利用調整を行う

ことといたしました。

令和四年度学校様

の宿泊予約は、令和三

年六月頃にご案内し、

申込いただいた日程を

もとに、利用調整を行

う予定です。

なお、学校様以外の

団体様は、現状と同じ

く、原則として六ヶ月

前からの宿泊予約受付

けとなります。



横浜あゆみ荘

エトセトラ

・Bluetooth接続の

ワイヤレススピーカー

貸出をはじめました。

訓練室や研修室のダン

スやイベントにご活用

いただけます。

フロント前売店の番人

気は、客室でもおだし

している通称、「作業

所クッキー（六〇円税

込）。素朴な味でリ

ピーターに愛されてい

ます。

横浜あゆみ荘の洋室に

は、「いわさきちひろ」

さんの絵画がかざって

ある部屋が二室あり

ます。

喫煙室が廃止になり

ました。これで、ふれあ

いの丘敷地内が全面禁

煙となります。

・レストラン、春の季節メ

ニューは「はまぽーく

つけそば・つけうどん

（七〇〇円税込）。具

沢山のつゆでいただく

そば・うどんをお楽し

みてください。

あゆみ荘総利用者
百五十万人を
迎えました

横浜あゆみ荘は、昭和五十九年十一月開所

以来の総利用者数が、

令和二年十二月に百五

十万人をお迎えいたし

ました。ご利用いた

いただきました皆様に深く

感謝いたします。

今後も皆様に喜んで

いただけるよう努めて

まいります。皆様のお

越しを心よりお待ちしております。

職員一同お待ちしております



職員一同お待ちしております

お問い合わせは、

横浜あゆみ荘まで

☎045(641)803803